

第2回まちあるき（臨港貨物線コース）参加レポート

開志専門職大学 高杉菜々子

このたび、令和7年10月11日に開催された東区E産探求プロジェクト事業「第2回まちあるき（臨港貨物船コース）」に学生記者として参加しました。今回のまちあるきでは、日本を支える物流の現場を実際に見学することができました。その様子をレポートします。

初めに訪れたのは「焼島駅」です。かつてこの駅は、焼島駅に隣接する各工場へ原料や化学薬品、製品の発着を行い、産業において重要な役割を果たしていました。現在は北越コーポレーション株式会社新潟工場につながる専用線が増設され、コンテナ輸送が行われていますが、焼島駅を利用しているのは北越コーポレーション株式会社のみです。東区は個人的に馴染みのある地域ですが、身近な場所に貨物列車の駅があることを初めて知り、驚きました。まちあるき当日は、貨物列車が焼島駅で線路を変える入換作業の様子を見学しました。普段見る機会がない貨物列車を間近で見られ、とても迫力がありました。



画像①（左）…貨物列車、画像②（右）…焼島駅

次に「焼島地蔵尊」を訪れました。かつてこの地には、「焼島潟」と呼ばれる潟があり、風や波が強い日には船が難破し、命を落とす人もいたと伝えられています。その亡くなった人々の霊を弔うために、この地蔵が祀られたそうです。想像していたよりも大きな地蔵が、お堂の中に安置されていました。中には千羽鶴や花が供えられており、地域の人々にとても大切にされていることが感じられました。



画像③…焼島地藏尊

次に「臨港埠頭」を訪れました。ここでは、実際に船からの荷下ろし作業を見学しました。普段は立ち入ることのできない現場で、物流の仕組みや作業の様子を間近で見ることができ、この「まちあるき」ならではの貴重な体験でした。クレーンで何トンもの荷物が次々と運ばれていく様子は迫力があり、思わず見入ってしまいました。また、当日は中国から来航した船にベトナム人の乗組員が乗船しており、国境を越えたコミュニケーションが日々行われていることを実感しました。

最後に「東新潟港駅」を訪れました。この駅はかつて、新潟港の輸出入貨物を取り扱う際に、船舶と鉄道をつなぐ重要な結節点として機能していました。しかし、高速道路網の整備によるトラック輸送の台頭や、駅周辺の工場移転・統廃合によりその役割を終え、駅は休止状態となっています。現在も東新潟港駅で取り扱われていたような品目は他の駅から貨物鉄道輸送によって全国へ運ばれています。



画像④（左）…東新潟港駅、画像⑤（右）…東新潟港駅の中

参加してみたの感想

今回のまちあるきを通して、東区には日本の物流を支える重要な拠点が数多く存在していることを実感しました。以前から工場が多い地域という印象を持っていましたが、その産業的特徴が貨物輸送の発展に結びついていることを改めて理解することができました。さらに、工場地帯が形成されていることで、東区は雇用を生み出す重要な地域でもあると感じました。

今後も地域の産業や交通に注目しながら、その地域が持つ個性を発見していきたいと思っています。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました！